
G & B ! 最高の相方と別れた後、最悪の相方と出会った。

暁

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

G & B！最高の相方と別れた後、最悪の相方と出会った。

【Zコード】

Z5743Z

【作者名】

暁

【あらすじ】

最初は静かですが、一応ハイテンションコメディー目指してます。漫才師の話なので、セリフ自体が多くつたり、一つのセリフ量が多い時があるので、ちょっとラノベっぽいです。

多少エロがあるので、苦手な人は注意してください。

最悪な相方との出会い。（前書き）

この小説と同じタイトルがあつてビックリです！急遽1話のサブタイトルを、タイトルに付けました。

最悪な相方との出会い。

俺は昔からお笑い芸人になりたかった。その理由は2つ。

1つは小学生の時、クラスの皆を笑わせるのが好きだったから。
2つは高校生の時、兄さんの病気がもう治らないと知つて悲しんで

いた時、兄さんは言った。

「公、また面白い事してよ。辛い時こそ、笑いたいんだ」

そう、笑っている時は辛さを忘れることができる。それなら、俺は漫才で人を笑わせ、人の辛さを減らす漫才師になろうと、この時決めたんだ。

高校卒業した後、俺は両親に言った。

「俺、漫才師になる。だから、東京に行く！」

両親はもちろん反対したけど、俺は夜中に家を飛び出し、家族に内緒で上京したんだ。

上京したけど金もなく、家もない。しばらくは野宿生活が続き、バイト代はほとんどストレス解消のやけ食いに消えてしまう…。
そして上京してから5年経つた今、なんとか相方もできて、マンションに住んでいるが、58キロあつた体重は87キロになってしまった……。

ヤバいと思っているが、俺はボケ担当。ネタになるからいつか
フルルルルル。

ん？電話だ。…マネージャーからか。

「もしもし？…えつ！相方が俺とコンビ解消したいし、俺の顔も見たくない！？ふむふむ…『こんなデブはもう嫌だ』って言つている？はは…日本中のデブに謝れ！あつ、いや、七生さんに言つたんじゃないですよ。それで、新しい相方は……さつすが七生さん。もう見つけているとは。あつはい、どんな奴でもいいです。10分後にコンビですね。分かりました」

俺は電話を切った。どんな奴でも言つたが、ポンコツが来た

10分後、近くのコンビニに行くと、長身の男がブンブン手を振つているのを見つけた。夜中じやなかつたら、あれ少し恥ずかしいな

2

卷之三

「雅公だよね。オレは金木良よろしくー。」

金木は嬉しそうに笑う。

そして「この男かト
てケイでト変態アホだと知るの」……モノ

最悪な相方との出会い。（後書き）

この小説は不定期連載のため、次の更新は未定です。
なるべく早く更新したいです。

同居はじめました。

俺は金木を連れて、俺が住むマンションに帰った。

「えっと…何から始める?」

「お笑いってよく分かんないし、何でもいいよ~」

「よく分からないうち、じゃあ、お前がお笑い芸人目指す理由はなんだ!」

「お金が欲しいから」

「…」

「こいつ…そんな理由で芸人目指しているのか…。」

「芸人って言つても、今は全然儲かつてないからな」

「ふうん、別にそれでもいいよ。あつ、にくまん冷めた

「!?

なんだこいつ!話が通じない!」
「いつはアホの国から来た、アホの王子様か!

「とりあえず、ボケかツツ ハハ…いや、お前にツツ ハハは無理だ。
俺がボケをやる。いいな」

「了解~!」

「…」

なんかフワフワしているな…。

「ねえ、コンビ名変えるんでしょ。オレはそつこつの苦手だから、
公が考えてよ」

あつさり俺の名前言つてるし…。ハムつて言われるよりはマシだけ
ど…なんかムズムズするな。

「…今は思いつかないから、後で考えるよ。それでいいだろ…良

「…へへつ」

俺が名前を呼ぶと、良はニッコリと笑った。見た目は大人っぽい子供で、頭脳は子供だな。

シユンシユンシユンシユン。

「おっ、やかんのお湯が沸いたか
のつそり立ち上がり、台所に行く。

「良つてハーブティー飲めるの…うわっ！」

良に背中を向けながらお茶の準備をしていたら、いきなり後ろから良に抱きつかれた。

落ち着け自分！抱きついているのはでかい大型犬抱きついているのはでかい大型犬抱きついているのははつてちがうだろ！怖がるな自分！

「…俺、後から抱きつかれるの苦手だから離れる。熱い物持つてい
るし」

「公はいい匂いがする…」

ちくしょう！話が通じねえ（泣）！

「ねえ…エッチなこと…してもいい？」

「して…たまるかこの野郎！くらえ！火事場のデブ力！」

「うわっ！」

俺はブチ切れて、良を背負い投げた。

「あっ！お茶、かかるてないか！？」

「ん~、大丈夫だけビックリした。すごいね。背負い投げ出来る
んだ。こんな狭いところで」

「狭くて悪かつたな。つーか、お前…さつきのどうじう事だ」

「エッチしたいって言つたこと？あれは本心だよ。しないの？
「するか！」

「こいつ…ゲイだったのか…」

「つまんないの～」

氣をつけなきや、また襲われそうだな。

「ねえ、この部屋家賃いくら？」

「いきなりなんだ」

「いくら！？」

「…3万円」

「オレの部屋は5万円。でも、最近家賃払えなくなってきたんだ」

何が言いたいんだこいつ…。

「オレの部屋に住まない？ ネタ合わせとか今後の話もしたいし、2人で家賃分ければ2万5千円。公は5千円も節約できるんだよ」

たしかにいい話だが……襲われそうでなんか怖いな。

「どんな部屋だ？」

「バストイレキッキン付き、個人部屋が2部屋。あと壁は防音になつているよ」

防音だと！ それなら部屋でネタ合わせしても、隣りの人に怒られないつて事じやないか！

「その話、乗るよ。でも！ 僕は女が好きな普通の人間だ！ 僕はお前とやらしい事は絶対しない！ いいな！」

「……わかった」

と言つ訳で、俺はこいつと同居することになったが……。

「……はあ、バイト疲れたな……」

良の部屋を開けると……。

「……あつ、公。おかげり……。公も……一緒にする？」「するか！」

知らない男を連れ込んで、Hしていた。

「つーか、またしてるとか！ お前の部屋開けると90%エロ現場！ 疲れている俺を癒すつてこ」

「ん……もつとし」

「するな！ 続けるな！ 俺を癒せー！」

こいつと同居したのは、間違いだつたな……。

回路はじめました。（後書き）

『死刑囚子育てプロジェクト』は今日が明日の深夜更新予定です。

そして、完全に昼夜逆転しますが、今から寝ます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5743z/>

G & B！最高の相方と別れた後、最悪の相方と出会った。

2011年12月21日14時53分発行